

戦略の名称について

- 第1回検討会でも指摘があったように、「ウォーカブル」という表現は、都市計画についてのなじみのない区民等によっては「歩きやすい」という意味のみに捉えられてしまう可能性がある。
- ウォーカブル戦略が目指す姿を、区民等に分かりやすく伝えるため、戦略の名称について検討する必要があることから、第3回検討会で戦略の名称について意見交換を実施した。
- 第3回検討会での意見交換の結果を踏まえて、戦略の名称案について案を例示する。

(1) 戦略の枠組み

(仮称) 千代田区ウォーカブルまちづくり戦略が示すもの

- ・ウォーカブルなまちづくりの目的・考え方
- ・ウォーカブルな要素の定義・考え方
- ・ウォーカブルなまちづくりにおける方針
- ・ウォーカブルなまちづくりの実現に向けた道筋

⇒【ポイント】ウォーカブルなまちづくりを進めていくための枠組みを示すものであり、具体的に実施する事業・取組みを提示しているものではない。

(2) 第3回検討会でのご意見

	ご意見
樋口委員	戦略という単語が非常に硬く、ビジネスライクでとっつきづらいと感じる。一案として「<u>千代田 和 ウォーカブルプロジェクト</u>」を考えた。これは、「walkable」の「Wa(わ)」という意味と人が仲良くするさまの「和」のダブルミーニングである。 ⇒【ポイント】「戦略」という表現が行政以外の主体にとってもなじみのよいものになることが重要。ウォーカブルまちづくりを通して、地域の絆・結びつきを作っていくことが伝わることを重要。
細木委員	「<u>千代田ホームタウン～私たちが街をつくり、街が私たちをつくる～</u>」。 サブタイトルはヤン・ゲールの本の帯(*)にあった言葉だが、「私たち」がまちをつくるということを示すのが、抽象的ではあるが分かりやすいかと考える。 ⇒【ポイント】地域が主体になってまちを作っていくことが伝わることを重要。 *「人間の街: 公共空間のデザイン (ヤン・ゲール著)」におけるキャッチコピー「街の主役は人 私たちが街をつくり、街が私たちをつくる。」
中山委員	ウォーカブルには色々な解釈があるので、目的と手段が混同しないよう工夫できたらよいと考える。<u>ウォーカブルなまちをつくるのではなく、ウォーカブルを通じて実現したい価値というものがあらわれるとよい。</u> ⇒【ポイント】ウォーカブルなまちづくりを通して実現したい内容を表現することが重要。

(3) 事務局によるたたき台

○以下のポイントを踏まえて、事務局案を例示する。

■主題について

- 「ウォーカブルなまちづくり」は手段となるが、今後運用していく際の取り扱い方を考慮し、主題とする。一方、あくまで本戦略を通して実現したい内容が副題で表現されていることが分かるよう、表紙のデザイン等で工夫をする（下図参照）。
- 「ウォーカブルなまちづくり」の主体となる多様な人にとってなじみのよいものとするため、また、本案がウォーカブルなまちづくりを進めていくための枠組みを示すものであり具体的に実施する事業・取組みまで提示しているものではないことから、「戦略」という表現を再考する。

■副題について

- ウォーカブルなまちづくりを通して実現したい目標を主題として表現する。
- 地域が主体になってまちを作っていくことが伝わるのが重要である。
- ウォーカブルまちづくりを通して、地域の絆・結びつきを作っていくことが伝わるのが重要である。
- これまでの議論を踏まえ、「活動を日常化」する案についても作成する。

【主題の案】

案1	千代田区ウォーカブルまちづくりデザイン
案2	千代田区ウォーカブルプロジェクト

【副題の案】

案1	私たちがまちをつくり、まちが地域の和をつくる
案2	私たちのためのまちをつくり、まちが私たちを豊かにする
案3	私たちが日常を豊かにする、人中心のまちづくり

※案1・2は「つながる都心」が実現した姿を表現した案になる。

※案3は「つながる都心」のために実現していくことに重きを置いた案になる。

【表紙における主題と副題の表現イメージ（いずれも案1を例に使用）】

千代田区ウォーカブルまちづくりデザイン

私たちがまちをつくり、まちが地域の和をつくる